

ぜつ校長通信

No.44 (7月号その3)

蓼科高校 校長 宮澤 和人

2021.7/27



1学期が終了 いざ夏休みへ！～終業式は校長室からオンラインで～



校長室スタジオから on-air！

4連休のあと、7月26日（月）は1学期の終業式でした。新型コロナ感染拡大防止のため、各教室の電子黒板のスクリーンに、映像を配信するオンラインで実施。

校長室をスタジオにして、担当職員と生徒が集まり行われました。1年以上の長きにわたりコロナ対応をしているので、職員も生徒もオンラインには慣れたものです。

ちょうど、初代校長の保科百助先生の写真に見守られるようなアングルを選び、画面が決められました。最初に生徒指導の先生より夏休みの過ごし方の注意が伝えられ、次にクラスマッチの表彰が行われました。そして、終業式の講話。私が話をして、式が終わりました。生徒のみなさんが健康で充実した休みを過ごすことができるよう、祈っています（講話内容は裏面）。

大人気！ 夏休み ちびっ子理科実験 ～10円玉をピカピカにしてみよう！～



理科のNHK先生と、2人のアシスタント

7月27日（火）、夏休みに入った小学生のために、本校の理科の先生方が立科町児童館に訪れ、理科実験を行いました。前回の実験が評判を呼んだのでしょうか、今回参加希望者が90名と前回よりも大幅に増えたため、二部構成にしての実施です。

今回の実験は、『10円玉をピカピカにしてみよう！』です。

冷蔵庫や家庭にある身近

な材料11種類を使い、子どもに予想させて、実際に試して結果を知り、共通点を探る内容でした。

子供たちは、H先生のショーのような演出にはまり、楽しみながら実験をしていました。



困ったお話(その41) (半世紀ぶりの訪問)

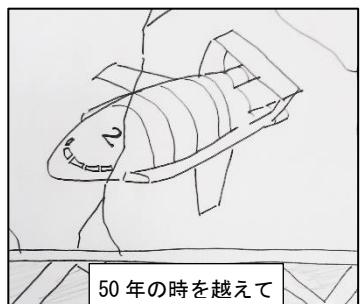
もう夏休みだ。娯楽の少なかった小学生の頃、私の夏休みはラジオ体操とプールの毎日だった。また、兄や友達と池で釣りをしたり、川でモリ突きをしたり、林でカブトムシを捕ったり、清水が湧き出ている崖に行つて沢ガニを捕ったり、ワイルドに遊びほうけていた（そのかわり最終日に困って泣きながら宿題をやった）。

ある日、伊那市の親戚の家に行くことになり、我々兄弟は喜び勇んで電車に乗った。あまりにも嬉しかったので、我々は調子づいてしまい（駒ヶ根では「おちゃんきに乗る」という）、そこで以下の悪行を重ねた。

- ① 忍者赤影のまねをして塀の上を歩き、板塀をこわした。
- ② 土蔵の壁に「サンダーバード2号」を描いた。
- ③ 補虫網で、池の錦鯉を捕まえた。
- ④ ドジョウを捕った泥だらけの素足で、座敷や床の間を荒らした。

女姉妹しかいない静かな親戚の家は、我々野蛮人の襲来に仰天し、従伯母は私達をこっぴどく叱りつけ、べそをかく私にこう言った。

『へえおめえたのような与太っ小僧は、高校卒業まで来んな！』



50年の時を越えて

昨年、その従伯母が亡くなり、私は新盆で約50年ぶりにその家を訪れた。母屋は新築されていたが表門などはそのままで、はどこが出迎え『えーっ、かずちゃん今まで出禁だったの？』と大笑いされた。

そして帰り際、土蔵の裏に回ったら見つけてしまった。

『サンダーバード2号だ！』

みなさんこんにちは。4月から新年度が始まって、今日までで1学期が終わります。

みなさん、この4月から7月までを振り返ってみて、どのような感想を持っているでしょうか。

特に1年生は中学校と違い、通学に時間がかかる、授業は難しくなる、給食がない、細かく指図されることがない、など身の回りの環境の大きな変化にも慣れて、自分のペースをもつと同時に高校生として責任ある行動ができたでしょうか。



さて、23日より東京オリンピックが開催され、無観客という異例な状況の中にありながらも、水泳の池江選手や大橋選手、柔道の高藤（たかとう）選手や阿部兄弟、スケートボードの堀米選手、卓球やソフトボールなど、日本人選手の感動的な活躍が続き、テレビから目が離せないこの土日でしたね。同時に新型コロナウィルスの感染状況も、人の流れが活発化するに伴い、東京都を中心に感染拡大が続き、長野県の状況も含め今後の予想がつきません。ですから、なるべく感染リスクを減らし日常生活を送ることが最も大切です。特に夏休み中は、繁華街で大勢での飲食など、人の集まりやすい密な場所へ行くことは極力避け、マスク、手指消毒を徹底することが必要です。幸い豊かな自然に囲まれて生活している私たちは、一歩郊外に出れば密になりようがありません。アウトドアスポーツや散歩でも、手軽に楽しめ心身をリフレッシュできる環境があります。

長野県には、そのような環境に魅力を感じ、大勢の方が移り住まわれています。「信濃毎日新聞」では、この時期そのような信州に縁のある方々のお話を「山ろく清談」というコーナーで第一面に特集しています。昨日は、俳優の渡辺謙さんのお話でした。渡辺さんは現在日本を代表する映画俳優として、「ラストサムライ」などのハリウッド映画にも出演し、国際的にも高い評価を得ている方です。しかし、20代の時NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」に大抜擢されたころ、主演で伊達政宗のような大役を自分が長丁場のスタジオ撮影で演じられるか自信がなく、悩んでいたそうです。その時に、共演した先輩俳優から言わされた言葉が、『誰でもいいから会った人に笑顔で「おはようございます」って言い続けたら何とかなる』だったそうです。半信半疑で実践すると、掃除のおばちゃんら周囲のみんなが応援してくれるようになり、長丁場の撮影も乗り超えていくことができ、あのNHK大河ドラマ史上トップの視聴率を誇る名作が生まれたそうです。毎回同じことをお話ししますが、今まで私は蓼科高校を良い学校にしましょう、そのためには皆さん一人一人の心がけ次第で、例えば、挨拶をする、自主トレーニングをする、目についたごみを拾う、など毎日一つでいいから、実践してみましょうと話しています。その話と同じです。その積み重ねが大きな成果を生みます。自分の目標の達成や夢の実現につながります。同時に自分の学校に誇りがもてるようになります。

最後にこれからのこと話をします。特に2年生は、これからポプラ祭、オープンキャンパスへの参加、修学旅行、生徒会役員選挙、進路選択、など高校生活で重要な節目がいくつもあります。3年生は生徒会の仕上げと、進路決定への実践一筋です。就職は一般教養を身に付ける、企業の選定、志望理由書、応募前職場体験、出願準備、進学は、受験学力をつけるための勉強、推薦制度を使っていく人は志望理由書、あるいは進路につながる体験・課題解決学習などの受験準備があります。

みなさんがそれぞれの目標に沿って、全力で当たってほしい。皆さんはその努力の積み重ねとなれるような夏休みを送ってください。

終わります。